

科目 コード	51111	授業 科目	保健看護管理・教育特論 I Nursing and Health Administration and Education Theory I			担当 教員	○嘉手苺英子 未定 非常勤	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	保健看護サービスシステムについての理解を深め、看護職が現場で直面している課題、現場の変革を推進するために必要な体系的知識・技術を有効に活用できる方略を学ぶ。 看護教育の特性と、我が国における看護教育の歴史的変遷を理解し、現在の問題点と今後の課題について理解する。さらに、看護と教育に共通する人間の認識およびその発展に関する理論、および教育方法に関する知識を学び、現実の問題解決にどのように活用できるかを検討する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の保健医療制度の現状を分析し、保健看護管理に関する問題解決のプロセスにマネジメント・リーダーシップ理論を活用できる。</li> <li>2. 変化理論を活用し、現状を変革するための戦略・戦術、変革のプロセスについて検討する</li> <li>3. 保健医療の質保証に関するシステムおよびリスクマネジメントの実際を知る。</li> <li>4. 保健看護管理における倫理的問題への対応を考える。</li> <li>5. 看護教育、看護教育制度・教育課程の概要とその変遷について述べるができる。</li> <li>6. 主な学習理論と看護教育への活用について述べるができる。</li> <li>7. 人間の認識およびその発展のメカニズムについて具体例で説明でき、実践に活用できる。</li> <li>8. 看護教育実践の構造を看護の原基形態の多重構造の中に位置づけて説明できる</li> </ol>							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1回	保健看護管理概説						未定	
第2回	日本の保健医療制度の動向：医療制度改革、医療提供体制・診療報酬体系							
第3回	組織行動論：人間行動理論、マネジメント機能とリーダーシップ						非常勤 未定	
第4回	組織行動論：モチベーション（動機づけ）理論、目標管理							
第5回	看護専門職技能（スキル）としてのリーダーシップ、対人関係技能						非常勤 未定	
第6回	医療の質保証：医療の質保証と医療安全							
第7回	変革のための戦略・戦術、オートノミー、アサーティブネス						嘉手苺英子	
第8回	看護管理に関わる倫理的問題；患者の権利と看護者の役割、問題状況への対応							
第9回	看護教育の概念とその特性：教育とは／看護とは／看護教育とは						嘉手苺英子	
第10回	看護教育制度と看護学教育課程							
第11回	学習理論と看護教育への応用						〃	
第12回	看護教育に必要な認識論；認識および認識の発展							
第13回	看護の原基形態と看護教育実践の原基形態						〃	
第14回	〃							
第15回	今日的課題；看護教育に関する諸報告書の概観から						〃	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配布する							
参考文献	金井寿宏,高橋潔.(2004).組織行動の考え方.東洋経済新報社. 杉森みど里,舟島なをみ. (2016). 看護教育学,第6版,医学書院. 薄井坦子(2014).科学的看護論 第3版(新装本版).日本看護協会出版会.							
成績評価の方法	評価は講義への参加状況（発表を含む）とレポートを総合して行う。							
備考								

<b>科目コード</b>	51120	<b>授業科目</b>	保健看護管理演習 Nursing and Health Administration Seminar			<b>担当教員</b>	○未定 非常勤	
<b>開講年次</b>	博士前期課程 1年次前期	<b>単位数</b>	2単位	<b>科目分類</b>	専門科目・演習	<b>授業形態</b>	演習	
<b>選択必修</b>	選択(分野必修)	<b>時間数</b>	60時間					
<b>授業概要</b>	臨床現場で直面している保健看護管理上の問題を把握し、問題解決のプロセスにそって対応策を立案し実践できる技能を身につける。							
<b>到達目標</b>	1. 問題解決プロセス；現状把握 問題発見、原因と結果の分析、解決策の提言ができる。 2. 自分の対人関係能力に関して自己点検ができる。 3. 自分のマネジメント・リーダーシップの特性を把握できる。 4. 日本の保健医療システム、医療制度改革の方向性等に関する既存資料の分析ができる。 5. 日本の保健医療サービスの現状に対する問題を明確にできる。							
<b>回数</b>	<b>授業内容及び計画</b>						<b>担当者名</b>	
第1回 ～	保健医療福祉の現状に関する資料（既存のデータ）を保健看護管理の視点から分析・考察する。						未定	
第5回 ～	保健看護管理の諸機能(用語の整理)；アドミニストレーションとマネジメント、スーパービジョン、コーディネーションとコンサルテーション、スタッフ&ライン機能						未定	
第7回 ～	保健看護管理に必要なマネジメント機能とリーダーシップ機能（自己点検）						未定	
第9回 ～	日本の保健医療組織構造の特性と看護職の権限・責務（欧米との比較） (文献検討)						未定	
第13回 ～	患者ケア方式(チームナーシング・プライマリーナーシング等)の特徴とナーシングリーダーシップ（実例報告）						未定	
第17回 ～	変革のプロセス（管理的諸問題解決のための実践的アプローチ）						未定	
第19回 ～	医療におけるリスクマネジメントと倫理的課題（事例紹介）						非常勤	
第21回 ～	看護専門職のキャリア開発（文献検討）						未定	
第25回 ～	キャリア・デザイン；自己啓発モデルの作成						未定	
第29回 ～ 第30回	看護専門職としての自己の課題の明確化（報告会）						未定	
<b>テキスト</b>	関連資料、文献などを適宜配布する							
<b>参考文献</b>	演習課題に沿って、事前学習に必要な文献・資料等を紹介する。							
<b>成績評価の方法</b>	評価は演習への参加度およびプレゼンテーション、レポート等を総合して行う。							
<b>備考</b>								

科目 コード	51125	授業 科目	保健看護管理実習 Nursing and Health Administration Practicum			担当 教員	○宮里智子	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習	
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間					
授業概要	保健医療機関、訪問看護ステーションなどの活動を理解し、それぞれの現場が直面する保健看護管理上の課題解決に向けて、保健看護管理特論及び演習の学習を基に、院生が選択した課題を文化間保健看護的視点から解決する技法について実習する。							
到達目標	1. 臨床現場における保健看護管理の実際を知り、現状の問題点と今後の課題を述べる。 2. 看護職の人材育成・キャリア開発の実際を知り、現状の問題点と今後の課題を述べる。 3. 保健医療機関の機能分化に伴う保健看護管理活動の現状を理解し、今後の課題を述べる。							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
	<p>目標1：保健医療機関の機能分化の方向性（地域包括ケアシステム）と保健看護管理の現状を理解し、今後の課題を明らかにする。</p> <p>内 容：1)看護部長、看護師長の看護管理の実際に携わり、看護管理上の課題と課題解決に向けての改善策を提言する。 2)病院のリスクマネジメント機能の実際を見学し、リスクマネジメント上の課題とその課題解決に向けての改善策を提言する。 3)認定看護師、専門看護師の活用を理解し、看護管理上の課題と課題解決に向けての改善策を提言する。 4)医療機関における機能評価システムや患者ケアシステムの実際を見学し、現行のシステムの課題と課題解決に向けて提言する。 5)機能分化に伴う保健医療施設の機能についての理解を深め、現行の課題を明確にし、その課題解決に向けての改善策を提言する。</p> <p>方 法：1)実習場所：医療機関（国公立、民間病院）、その他 2)実習期間：3週間</p> <p>目標2：訪問看護ステーションにおける保健看護管理の現状を理解し、今後の課題を明らかにする。</p> <p>内 容：1)訪問看護ステーションの管理の実際に入り、訪問看護師と協働で在宅看護ケアを行いながら、現行の管理上における課題と課題解決に向けての改善策を提言する。 2)訪問看護ステーションにおける看護実践・管理に関する自己評価システムおよび患者ケアシステムの実際を見学し、現行のシステムの課題と課題解決に向けて提言する。</p> <p>方 法：1)実習場所：訪問看護ステーション 2)実習期間：1週間</p>						宮里智子	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配布する							
参考文献	適宜、紹介する。							
成績評価の方法	評価は実習への参加状況、実習態度、成果に関するレポート等の提出物及び施設の実習担当者の情報などを参考に総合的に行う。							
備 考	学生は実習指導教員及び施設の実習担当者と連携をとりながら実習を行う。実習終了後、学習したことをレポートとして提出する。							

科目 コード	51133	授業 科目	保健看護管理・教育特別研究 I Nursing and Health Administration and Education Special Study I		担当 教員	◎嘉手苺英子 宮里智子	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				
授業概要	保健看護管理・教育領域において院生が自ら研究課題をみつけ、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察して論文を完成することを学習する。この過程から学問をする態度、倫理性、科学的思考、学問を通しての社会的貢献などを学習する。						
到達目標	1. 研究プロセスを理解し、研究指導教員の指導の下に実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現法などの基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 研究する者として必要な倫理的態度を身につける。						
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定＊ 履修指導、履修届の提出＊  関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成  毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討＊ 研究倫理審査申請＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析						嘉手苺英子 宮里智子
2年次	10月（4月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討＊ 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月（6月） 修士論文 第1稿・学位審査申請書の提出＊ 1月（7月） 中間発表会＊ 修士論文 最終稿 の提出＊  2月（8月） 論文審査・最終試験＊ 可否および修了判定 3月（9月） 公開発表会＊ 修士論文 保存版 の提出＊  ※（ ）内は、前学期修了者の日程						
テキスト	指定なし。関連資料、文献などを適宜配布する						
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。						
成績評価 の方法	審査委員会により論文審査および最終試験（口頭または筆記による）を行う。						
備考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自提示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。						

科目 コード	51141	授業 科目	保健看護管理・教育課題研究 Nursing and Health Administration and Education Problem Study		担当 教員	◎嘉手苺英子 宮里智子	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240時間				
授業概要	保健看護管理・教育領域に関連した現場の中で自ら選択する課題に焦点をあて、課題に関する最新の知識を収集し理解した上で、問題解決の方法と技法を考究し、実践の結果を分析、考察して報告書を作成する。						
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下、課題を発見し、問題解決方法や技法を考究し、実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現方法など基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 実践家として必要な倫理的態度を身につける。 5. 専門職種として生涯学習する態度を身につける。						
回数	授業内容及び計画						担当者名
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定＊ 履修指導、履修届の提出＊  関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成  毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討＊ 研究倫理審査申請＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析						嘉手苺英子 宮里智子
2年次	6月・10月（2月） 総合科目試験＊ 10月（4月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討＊ 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月（6月） 課題研究 第1稿・学位審査申請書の提出＊ 1月（7月） 中間発表会＊ 課題研究 最終稿 の提出＊  2月（8月） 課題研究審査・最終試験＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会＊ 課題研究 保存版 の提出＊  ※（ ）内は、前学期修了者の日程						
テキスト	指定はない。関連資料、文献などを適宜配布する。						
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。						
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験（口頭および筆頭）、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭または筆答）を行う。						
備考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自提示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。						

<b>科目コード</b>	51720	<b>授業科目</b>	保健看護教育演習 Nursing and Health Education Seminar			<b>担当教員</b>	○嘉手苺 英子	
<b>開講年次</b>	博士前期課程 1年次前期	<b>単位数</b>	2単位	<b>科目分類</b>	専門科目・演習	<b>授業形態</b>	演習	
<b>選択必修</b>	選択(分野必修)	<b>時間数</b>	60時間					
<b>授業概要</b>	看護教育の今日的課題について文献を通して理解する。さらに、看護教育実践を対象とした研究方法論の基礎を学ぶ。							
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践能力および看護技術の構造と教育方法の概要を説明できる。</li> <li>2. 臨床における現任教育システムと指導者の役割について説明できる。</li> <li>3. 関心のある看護教育上の課題について文献検索し、内容の批判的読み取りを通して明らかにされていることと今後の課題を見出し、その結果を記述する。</li> <li>4. 自己の看護教育実践を客観視し、原基形態に沿って記述する。</li> <li>5. 記述された看護教育実践過程に潜む論理を抽出することができる</li> </ol>							
<b>回数</b>	<b>授業内容及び計画</b>						<b>担当者名</b>	
第1・2回 第3・4回 第5・6回 第7・8回 第9・10回 第11・12回 第13・14回 第15・16回 第17・18回 第19・20回 第21・22回 第23・24回 第25・26回 第27・28回 第29・30回	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践能力とその評価 //</li> <li>2. 看護技術の構造と修得過程</li> <li>3. 看護技術教育方法</li> <li>4. 教育評価 //</li> <li>5. 臨床における現任教育システム ・クリニカルラダー、キャリアラダー／新人看護職員研修</li> <li>6. 臨床における指導者の役割：臨地実習指導者、プリセプター //</li> <li>7. 看護教育の関心領域に関する文献のレビュー //</li> <li>8. 自己の看護教育実践の中で印象に残っている体験の再構成と分析 //</li> </ol>						嘉手苺英子	
<b>テキスト</b>	関連資料、文献などを適宜配付する。							
<b>参考文献</b>	薄井坦子(編). (2004). Module方式による看護方法実習書 第3版. 現代社. 梶田叡一. (2002). 教育評価 第2版増訂版. 有斐閣双書. 他							
<b>成績評価の方法</b>	評価は授業への参加状況(参加、討議への参加)と課題レポートにより行う。							
<b>備考</b>	授業はゼミ形式で行なう。							

科目 コード	51725	授業 科目	保健看護教育実習 Nursing and Health Education Practicum		担当 教員	○嘉手苺 英子	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	180時間				
授業概要	看護基礎教育および継続教育の場で、各自の問題意識と能力に応じて見学または教育実践を行い、看護職者の育成を目指した看護教育の実際と課題について理解する。さらに、自己の看護教育実践を客観視し、自己評価する能力を高める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護基礎教育と継続教育の共通性と相異性について述べることができる。</li> <li>2. 看護教育における教育目標—教育方法—教育評価の流れを、具体例で説明できる。</li> <li>3. 自己の看護教育実践の特徴を客観視し、看護教育者としての課題を述べることができる。</li> </ol>						
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名
	<p>看護教育に関する問題意識や関心を整理して実習計画を立て、計画に沿って実習を行う。計画の中には、いずれかのフィールドにおいて教育者の立場からの実践を組み入れる。</p> <p>実習の前に</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 問題意識（課題）や能力に応じて実習フィールドおよび参加形態、期間を決める。</li> <li>2. 実習フィールドとして看護基礎教育および継続教育の中から選択する。</li> </ol> <p>看護基礎教育（例） 沖縄県立看護大学における教育（授業、演習、実習）</p> <p>継続教育（例） 看護職能団体における研修会 病院看護部における現任教育 病棟におけるプリセプター教育</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 実習フィールドにおける看護教育の特徴について事前学習を行う。</li> <li>4. 実習課題および参加形態について、担当教員を含めて実習先と調整を行う。</li> </ol> <p>実習期間中</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先の教育活動の流れに沿って参加し、適宜、実習先の指導者とカンファレンスを行う。</li> <li>2. 実習の中間および終了時に担当教員を含めて実習課題の到達状況に関してカンファレンスを行う。</li> </ol> <p>実習終了後、実習課題に関してレポートを作成する。</p>						嘉手苺英子
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する						
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。						
成績評価の方法	実習への参加および課題レポートを総合して行う						
備考							